

TOPICS
1トピックス…①
交牧連クラブ・ユースが「若手の集い」を開催

地域交流牧場全国連絡会は2016年12月4日、東京の大妻女子大学・千代田キャンパスにおいてクラブ・ユース事業「若手の集い第5弾！らくのうワールドカフェ」を開催した。若手酪農家や学生など約80名が参集し、ワークショップやディスカッションを通じて若者同士の交流を深めた。

地域交流牧場全国連絡会（交牧連）は、離農の増加や後継者の不在等によって生乳生産基盤の弱体化が深刻化している状況等を踏まえ、日本酪農の発展に貢献する観点から、後継者世代の育成を図ることを目的としたクラブ・ユース事業を2014年に立ち上げた。14年12月9日（第1回：東京都）、15年7月12日（第2回：東京都）、同12月6～7日（第3回：熊本県）、16年7月7～8日（第4回：青森県）に「若手の集い」を開催し、全国から若手酪農家や学生などが多数参加し交流を深めた。

「若手の集い」は今回で5回目となり、全国の若手酪農家や学生など約80名が参集し、ワークショップやディスカッションを通じて、酪農経営の向上や酪農への「正しい」理解の促進、さらには新規就農等につなげていくことを目的に開催された。

1. ワークショップ「仮想酪農場」

「仮想酪農場！～放牧、山地、メガ、ショウ（共進会）、6次化、私の理想の牧場は～」をテーマに開催されたワークショップでは、班分けされた参加者が、指定された地理的条件を踏まえて、自分たちの理想とする牧場像を自由に描いて提案し、その飼養形態・規模、経営の特徴（6次産業化、教育ファーム活動）、牧場建設費、近隣農家等との連携関係などについてのアイデアや課題を出し合った。ワークショップでの議論の成果は、模造紙にまとめられ、班ごとに発表された。



2. ディスカッション「らくのうワールドカフェ」

メインイベントの「らくのうワールドカフェ」では、参加者が4～5名の班に分かれて、若手酪農家と学生等の中で意見交換が行われた。班分けされた参加者は、一定時間内にリーダーとなった1名を除く全員が席を移動し、自由に新たな班の構成員となり、カフェのようなリラックスした雰囲気の中で様々な話題について議論した。若手酪農家が就農志望の学生に自分の就農体験を話したり、学生が若手酪農家から新規就農に当たってのアドバイスを受けたりする姿も見られ、就農志望の学生からは、「酪農家等との議論で得られた情報を必ず将来に活かしたい」という前向きな意見が聞かれた。

